

補助事業番号 25-2-67
補助事業名 平成25年度 福祉車両の整備 補助事業
補助事業者名 社会福祉法人 愛寿会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

…居宅の重介護者(介護度4から5)に対してデイサービスを提供し、住み慣れた馴染みの環境でできるだけ生活が継続できるよう支援する。…

現在の介護保険制度は、施設ケアから在宅ケアへとその方針が向けられています。これは住み慣れた馴染みの中で介護サービスを受けながら、できる限り生活を継続してもらう考えで、非常に利用者にとって良いことであると考えます。しかし、重介護者を在宅で介護してもらうためには、それに伴う整備も必要であります。これまで当施設では、施設入所までいかない介護度3以下の、比較的元気で介護度の低い対象者をメインにサービス提供をして参りましたが、この方針転換により重介護者への対応も必要となり、車椅子対応の車両を整備して参りました。

現在、このニーズは高まるばかりとなり、今後も重介護者へのサービス提供が増加すると予測されるため、今回車椅子対応型の車両を整備し、これに対処するものである。

(2) 実施内容

…[移送車2「車椅子仕様\(スロープ式\)」](#)…



今回導入しましたスロープ式車椅子型福祉車両は、定員7名(車椅子乗車時5名)の上記掲載の車両であります。送迎で山間地域の集落を回ることから、道幅の狭い道路が多く、乗車定員も多いので、コンパクトな車体で車椅子が搭載できることが条件となり、この車両となりました。

スロープ式ではありますが、牽引用のベルトを活用するため女性でも力を要せず楽に乗降介助が可能となります。また、車高調整も搭載されていることから、度がきつい時には車

高を下げてスロープの角度をゆるくする方法も取れます。

2 予想される事業実施効果

…1台車両が増加することにより、これまで運行できなかったエリアに送迎車両をまわすことができるようになり、結果としてこれまでサービス提供ができなかった「サービスの希薄地域」を減らすことができる。…

今回の整備では車椅子を対象とする利用者へのサービス提供を充実させ、介護度4・5の方の送迎問題を解決することを目的とし、導入。これにより解消が図られました。

実際、配車した地域での車椅子利用者のサービス利用は増加。また、これまで乗り換えなければならなかった利用者も車椅子ごと送迎できるようになった。これと共に、1日に配車できる台数が1台増加したことから、これまで以上に営業範囲が広がり、当施設のデイサービスを選択できる利用者も増加した。

また、同範囲に複数配車が可能になったことにより、よりきめの細かい送迎が可能となり、長距離のルートが見直され、最短での移送が可能となり利用者への時間的負担も解消された。

3 印刷物等

本事業に係る印刷物等

「愛寿会だより」第171号 及び同冊子600部印刷し行政及び家族送付
(URL) <http://www.aijyukai.com/pdf/newsletter/AijyuenDayori171.pdf>…

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 社会福祉法人愛寿会（アイジュカイ）
住 所： 〒408-0031
山梨県北杜市長坂町小荒間1293
代 表 者： 理事長 小宮山 光彦（コミヤマ ミツヒコ）
担 当 部 署： 法人事務局 企画担当
担 当 者 名： 企画部長 石原 公興（イシハラ コウキ）
電 話 番 号： 0551—32—3340
F A X： 0551—32—3546
E - m a i l： jinseien@poem.ocn.ne.jp
U R L： <http://www.aijyukai.com/>